

3 本講義の進め方と受講の仕方

- (1) 問題の出題のされ方、語句、表現、問われる論点などを理解するため、講義+演習形式で進めます。衛生管理者の学習項目は多岐に渡っていますが、同じような問題が繰り返し出題される傾向があるので、学習しながらそのポイントを把握しましょう。
- (2) 第I種を受験する方は、まず第II種のエリアをきちんと理解した上で有害・危険業務についてのエリアを学ぶことをお勧めします。実際の試験では、A C B D Eの順で出題されます。第II種の分野（有害業務以外）を先にこなしてから第I種の分野にかかるをお勧めします。
- (3) 学習にあたっては、まず問題の出題傾向を十分に分析しましょう。本講義では区切りのよいところでショートレビューを採り入れました。学んだことをすぐに頭に焼き付けるのに効果的だと思います。テキストを一通りこなした後はすぐに過去問を繰り返し解いてください。解答では分かりやすく説明を入れましたので、そこを理解することにより、学んだことが知識として蓄えられていきます。
- (4) 実際の試験では、テキストにない内容も出題されるでしょうし、既習内容ではあっても既成の論点を変えて出てくる問題もあります。しかし焦ってはいけません。一般的な常識で冷静に考えれば答えを導き出せることもありますし、既習内容を冷静に頭の中で整理すれば消去法を使って答えが導きだせることもあります。それと試験に合格するには60%得点すればいいのですから、状況によっては分らない問題に固執せずに切り捨てるこもありだと思います。講義を視聴するにあたっても、よくわからない箇所は固執せずに柔軟に対応していってください。
- (5) 近年、職場のメンタルヘルスがとても大きな問題になっています。また保育所や介護施設の拡大に伴い、腰痛の労災が増加しています。働く人にとって労働環境問題は不可避の事案でありますが、衛生管理者試験はそういった労働衛生問題と連動している傾向があり、上述のメンタル対策や腰痛対策についても試験問題に頻繁に登場するようになっています。そういう意味では衛生管理者の勉強をすることは労働社会の問題点を把握するための有効な取り組みであるとも言えます。

例えば、「重量物を人力で取り扱う作業場では、労働者全員に腰痛保護ベルトを装着させることが効果的である。」という設問があったとしましょう。一読したかぎりではもっともらしき内容に見えますがそうでしょうか？その重量物の程度によってはたいした負荷がかからない場合もあります。ベルトをすることによって作業効率を低下させてしまうこともあるかもしれません。そう考えれば、必ずしも全員にベルトを装着させることは効果的でないかもしれないということになります。換言すれば仕事の現場では事業者はそういうことを配慮して職場の労働衛生環境を考えなければならないわけで、衛生に関する技術的事項を管理する衛生管理者にとっては、こういう観点での法令や通達の理解が大切になってくるわけです。せっかくの勉強を机上の論で終わらせないようにしていきましょう。

- (6) 集中力を継続させるため、講義は1セット15分～20分程度で区切っていきます。皆様も逐次休憩を入れながら、自分がやり易いテンポで学習を進めてください。